

1 校内委員会の設置

- ### 校内委員会の役割
- 児童生徒の実態把握及び理解
 - 支援内容、支援方法の検討
 - 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の検討
 - 校内研修の推進

- ### ワンポイントアドバイス
- 既存の校内組織の活用
校内委員会の設置に当たっては、
 - ① 既存の校内組織に校内委員会の機能を果たせる
 - ② 既存の校内組織を整理・統合して設置するなど、学校の実態に応じて既存の校内組織を活用しながら、適切な設置の仕方を選びましょう。
 - 3段階のステップでの支援の検討
児童生徒への支援に当たっては、
 - ① つまずきや困難な状況に気付く
 - ② その原因を理解する
 - ③ 具体的な手立てを講じる
 の3段階のステップで支援を検討していきます。校内研修についても、この3段階のステップを参考に計画を立てましょう。



校内支援体制のマネジメント例

	PLAN	DO	CHECK	ACTION
校内委員会	* 実態把握及び理解 * 個別の教育支援計画等の作成 ○ 実態把握及び理解（生活や学習の様子等） ○ 校内資源（人・物・時間）の把握 ○ 支援内容・支援方法の検討（誰が、いつ、どこで、何をするか） ○ 専門家（巡回相談員等）の活用 ○ 個別の教育支援計画等の検討 ○ 校内研修計画の作成	* 個別の教育支援計画等に基づいた支援の実施 ○ 支援内容・支援方法の具体化 ○ 専門家（巡回相談員等）を活用しての事例検討の実施 ○ 校内研修会の実施 例：「注意を集中し続けることが困難な児童への支援方法について」	* 支援内容・支援方法の評価 ○ 支援内容・支援方法の有効性の検証 ○ 今年度の取り組みの整理	* 次年度の個別の教育支援計画等の検討 ○ 支援内容・支援方法の改善方針の検討 ○ 次年度の活動方針の検討
	○ 実態把握のための情報収集 ○ 校内委員会での支援の検討に向けた担任、専門家（巡回相談員等）等との調整	○ 校内研修の企画、準備 ○ 関係機関との連絡・調整 ○ 専門家（巡回相談員等）との連携 ○ 担任等へのアドバイス	○ 校内委員会での今年度の取り組みの整理に向けた情報収集	○ 担任等への支援内容、支援方法に関するアドバイス
特別支援教育コーディネーター	校長・教頭の指導のもと、関係教職員と相談をしながら、校内支援体制を考えましょう。	専門家（巡回相談員等）との連携や校内委員会での検討により、児童生徒のつまずきの原因等の共通理解を図りましょう。	担任が一人で悩まないよう、こまめに相談に応じたり、アドバイスをしたりして、担任を支援しましょう。	よりよい支援を考えるために、専門家（巡回相談員等）の活用も検討しましょう。また、困ったときに相談できるネットワークをつくりましょう。

2 特別支援教育コーディネーターによる連絡・調整

- ### 特別支援教育コーディネーターの役割
- 校内における役割
 - ・ 校内委員会のための情報収集、準備
 - ・ 担任等への支援
 - ・ 校内研修の企画・立案
 - 関係機関との連絡・調整
 - ・ 関係機関の情報収集、整理
 - ・ 専門機関へ相談する際の情報収集、連絡・調整
 - 保護者の相談窓口

- ### ワンポイントアドバイス
- 特別支援教育コーディネーターの指名
特別支援教育コーディネーターの役割を考慮すると、生徒指導主事、教務主任等の校内組織の主任を特別支援教育コーディネーターに指名することが効果的です。また、特別支援教育コーディネーターの校内組織における位置付けを明確にしておくことが大切です。
 - 関係者で支援の方法を検討
担任一人が課題に対応するのではなく、
 - ① 特別支援教育コーディネーターが支援内容・支援方法に関するアドバイスをする
 - ② 特別支援教育コーディネーターが連絡・調整役になり、校内委員会を開催する
 - ③ 専門家（巡回相談員等）を活用する
 など、関係者で支援の方法を検討しましょう。

